



Japan Heart

2014 annual report

年次報告書
2014.4.1～2015.3.31



2014年度 受賞
外務大臣表彰
沖縄平和賞

私たちの活動が
評価されました。

photo by Junji Naito

それを受ける者も行う者も 救われるような医療活動でありたい。

ジャパンハートの医療活動や社会福祉活動は
誰も進んだことのない高い山を登り続けているようなものだ
とふと感じることがある。

その一步一步は、患者や子どもたちとの出会いであり、
『一期一会』であるのだと。

5年後、10年後、私たちは果たして
どのくらいの高さの地点に立っているのだろうか？
きっとその高さによって見える景色は大きく違っていることだろう。
何ができるのか？ 何をしなければならないか？

きっと誰にも天から与えられたミッション(使命)があるように、
ジャパンハートにもそれはあるはず。

ある頂に立ったとき、ふと来た道を振り返る。
自ら登ってきたこの道は、そこで出会った人々と
それまで助かった子どもたちの連なる記憶となっていることだろう。
一人でも多くの病気の子どもの救われ、
一人でも多くの医療者が再生されていく。
それを受ける者も行う者も救われるような医療活動でありたい。

お金だけでは買えないような価値を人々に提供したい。
患者たちに心から同情し、家族の心をおもいやり、子どもたちの境遇に涙する。
たとえ患者たちが救われなくても、寿命が来てこの世から去ろうとしても、
彼らの人生を理解し寄り添えるようにになりたい。

日本の経験ある人々を多く現場に誘いながら
日本やアジアの若者たちを、学び、成長させていきたい。
そんな医療の集団を日本や海外で活躍させてみたい。

5年後、10年後、私たちがどのような頂に立ち、
どのような景色を見れているのだろうか？
是非、多くの人にも共にその美しいだろう景色を見てもらいたい。

特定非営利活動法人ジャパンハート代表／小児外科医

吉岡 秀人



10年のあゆみ

1995

吉岡秀人・ミャンマーで医療活動を開始

2004

国際医療ボランティア団体ジャパンハート設立

《ミャンマー》ヤンゴンオフィス開設

《ミャンマー》ワツチェ慈善病院で医療支援活動を開始

国際長期研修開始(現・国際看護長期研修)

頸部神経線腫瘍ウイン君来日・手術



2008

《日本》東京事務局開設

《カンボジア》プノンペンオフィス開設

《ミャンマー》サイクロン緊急救援・孤児支援開始

《ミャンマー》マンダレー寺子屋保健室開設

《日本》僻地離島支援開始

こころの医療事業開始(現・すまいるスマイルプロジェクト)

自由都市・堺 平和貢献賞 奨励賞受賞

NPO法人格取得



2009

《カンボジア》保健活動開始

《カンボジア》外務省MOU締結

脳瘤トウチャーアウン君来日

《カンボジア》保健省MOU締結

《カンボジア》医療支援活動を開始



2010

《ミャンマー》養育施設DreamTrain開設

《ミャンマー》視覚障がい者自立支援プロジェクト開始

医療マッサージ訓練センター開設



2011

《ミャンマー》里親支援制度開設

《日本》東日本大震災緊急医療支援・復興支援開始

《カンボジア》夢の架け橋プロジェクト開始

国税庁より「認定NPO法人」として認定を受ける

宮城県石巻「NPO法人ジャパンハートこども・内科クリニック」開設



2012

大山健康財団賞受賞

ニーニーちゃんプロジェクト開始

《ミャンマー》社会福祉省MOU締結

《ミャンマー》保健省MOU締結

《ラオス》ヴィエンチャンオフィス開設



2013

《ラオス》保健省MOU締結

《ラオス》医療支援活動を開始

《タイ》バンコクオフィス開設

《ミャンマー》首相夫人・安倍昭恵さんが養育施設を公式訪問

《フィリピン》台風30号ナルギス緊急医療支援



2014

《タイ・インドネシア》国際緊急救援事業開始

《インドネシア》社会省テクニカルアグリーメント締結

外務大臣表彰

沖縄平和賞受賞

「明日の象徴」受賞

《カンボジア》病院建設プロジェクト発表



これまでの主なTV出演

2005 テレビ東京 ドキュメンタリー特集「ここにいのちある限り」

2007 TBS「夢の扉」

2009 NHK教育「ETV特集〜ミャンマーに医療の架け橋を」・毎日放送「情熱大陸」1回目

2010 毎日放送「情熱大陸」2回目・テレビ東京「世界を変える100人の日本人」

2011 毎日放送「情熱大陸」3回目

2013 NHKBSプレミアム「輝く女」・朝日放送「こんなところに日本人」

2014 テレビ東京「未来世紀ジバンゴ」・内閣府テレビCM 出演

助かるはずの命を一つでも多く救う 日本の病院、医療者が賛同

1. 日本のチカラで 途上国の子どもを救う

「専門の技術を持った医療者がいない」「医療機器が無い」「早い対応ができない」などの理由から、日本であれば助かるはずの命が、途上国では亡くなっていくケースが多くあります。現地で医療活動を行う一方、ジャパンハートでは、日本に連れて来れば命が助かる可能性のある子どもたちを来日させる、または日本から専門医を派遣して治療を行う活動に注力しました。このプロジェクトは、これまで度々行ってきましたが、特に2014年度は、日本の医療機関、そして専門医の方々の理解と協力を得る事で多くの治療を実現できるようになりました。

● 小児腎臓がん ナムソムちゃん 1歳半(ラオス)

体調が急速に悪化し、緊急来日。体重の1/6もの大きさの腫瘍を摘出。



● 先天性心室中隔欠損 アウンくん 2ヶ月(ミャンマー)

明美ちゃん基金と協働し、来日が実現。2400gの小さな体で手術を乗り越えた。(写真提供：産経新聞社)

● 頸部腫瘍 ピョーくん 13歳(ミャンマー)

体の深くにまで入り込んだ腫瘍の摘出手術は、21時間に及んだ。



● 巨大肝嚢胞、先天性総胆管奇形 アンサンちゃん 1歳8か月(ラオス)

緊急手術のため、小児外科専門医チームを派遣。現地で手術、治療を行った。

● 小児腎臓がん マカラくん 7歳(カンボジア)

現地では適切な治療してもらえず、ジャパンハートの元を訪れ、緊急来日。



2. ミャンマー、ラオス、カンボジアで 年間2万人を治療

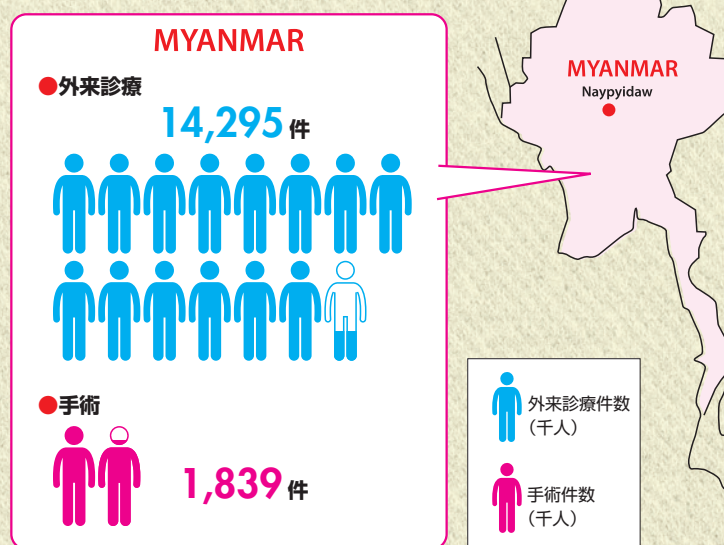
一人でも多くの子どもの未来を拓くために、家族の笑顔を取り戻すために、活動国の貧しい人々を対象に、無償で診察・手術を行っています。しかし、まだまだ多くの人たちが医療を必要としています。

ジャパンハートでは「現地に根付く医療」を目指し、現地人医療者の育成にも重点をおいて活動しています。

海外活動地 治療件数



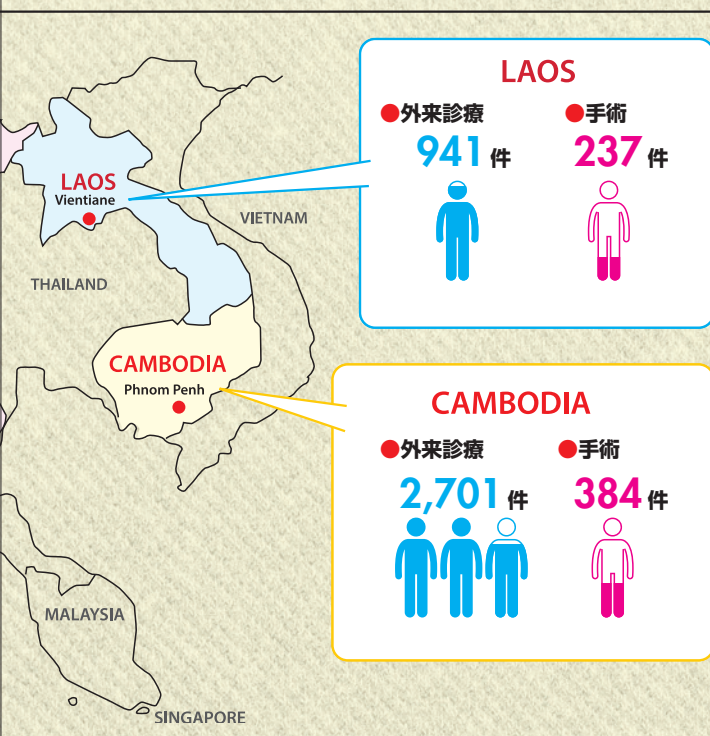
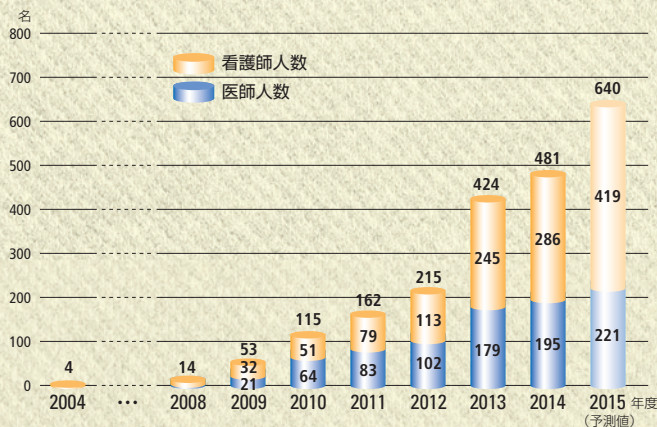
2014年度海外活動地外来・手術数



3. 日本人医療者の参加が大きな力に

日本全国から参加するボランティア医師・看護師が、活動の大きな支えとなっています。現地駐在スタッフがそれぞれの国で活動環境を整備しているため、一年を通して、医療ボランティアの受け入れを行うことができます。20年前、代表の吉岡がたった一人で始めた医療活動は、今や、多くの方々の賛同と協力を得て、大きな流れになろうとしています。

海外活動地 日本人医療者参加延べ人数



がん治療も視野にいたれた病院をカンボジアに建設

～無償の医療の提供と、現地人医療者の育成のために～

カンボジアでの病院建設に着手しました。貧しくて医療を受けられない人々に無償で医療を提供し、また人々から信頼される自国の医療者と医療環境を整えるため、現地医療者の育成にさらに力を入れていきます。新しい病院は、医療支援の重要拠点として機能させ、活動の発展拡大と安定的継続を実現します。また、対象エリアはカンボジアにとどまらずアセアン全域をカバーしていく予定です。

建設予定地はカンボジア首都プノンペンから北へ35キロほどのカンダール州ウドン地区。政府の病院敷地内の使用を認められました。現在カンボジア関係省庁への認可申請中ですが、年度内に建設を着工します。2016年度早々には病床40、手術室を複数備えた小規模病棟を完成させ、これを第一段階として開院します。開院と同時に第二段階の建設開始を予定しています。病床を計100までに拡大させ、特に産婦人科を中心とした機能を拡充します。そして将来的には、小児悪性腫瘍の治療を視野に入れた機能・設備の拡充を図っていく予定です。





国の医療を立て直す、 未来を見つめるプロジェクト。

医療活動と人財育成

ポルポト政権による医療崩壊から約40年。カンボジアの医療は知識と技術が遅れ、貧しい人々には適切な医療が届かない状況が続いています。ジャパンハートでは、田舎の病院で無償で手術や診療を行い、貧しい人々に医療を届けると共に、活動地の病院の医療者へ医療知識と技術の伝達を行っています。

2014年度は田舎の村々を巡回診療をする「巡回診療」の回数を増やし、診療を計16回2,701名、手術を計12回384件行いました。活動地も広がり、カンダール州ロカカオン病院で手術活動、コンボンチャム州チャムカールー地区で巡回診療を行っています。また、初の遠征として、プノンペンから車

で8時間のモンドルキリ州センモノロム病院で診察を行いました。

カンボジアでの医療活動は日本から参加するボランティア医療者に支えられています。日本人医療者の貢献は、貧しい人々の治療に留まりません。医療活動を行いながら、現地人医療者へ日本の医療技術と高いホスピタリティを伝えていきます。2015年度は、2016年度開業を目指す病院建設に加え、巡回診療の回数を増やし、さらなる活動地域の拡大を行います。

今後も、カンボジア人医療者の育成を最重要課題として、国の医療の向上に貢献していきます。



保健活動

カンボジアでは、学校で保健の授業がなく、健康や身体について指導してくれる人がいません。心も体も大人に近づく学生時代に知っておくべき問題や知識を学べる機会を増やしていきたいと考えています。

2014年度は、プレイベン州の日本アジア友好学園及びスヴァイリエン州スパイリチュロン高校にて健康診断を実施。また、健康診断のフォローアップとして健康管理についての授業を行いました。



カンボジア病院建設

現地でニーズ調査と土地の選定、建設計画の見直しを繰り返し行い、ついに具体的に病院建設に向けて動き始めました。

このプロジェクトは、さらに安定した医療支援の提供と現地医療者の育成を行う事を目的としています。カンボジア保健省の協力を得て、政府の土地を使用して病院建設を進行する予定です。

※ 詳しくは、P5の2015年活動計画を参照ください。

夢の架け橋プロジェクト(医療奨学生支援活動)

医療者になりたいと希望する貧しくも優秀な高校生が大学へ入学し、医師・看護師免許を取得できるよう、奨学金生として2011年より支援を開始しました。ポルポト政権により、医師は40名程まで激減しました。政府は国の医療を補完するため、知識の不十分な医療者を多く各地へ排出しました。そのためカンボジアでは、今もなお国民の医療に対する不信感が強く、医療者の絶対数もまだまだ足りていません。

本プロジェクトでは、学生に学費・生活費・住居の提供などの支援を行うと共に、ジャパンハートの医療活動を手伝う事で、「心を救う医療」に触れながら、知識や技術を学び、臨床経験を積む環境を提供しています。

2015年度は新たに2名の学生が加わり、計10名となりました。学生たちはそれぞれ、「医療者になり、村に帰って、村の人々の助けになりたい」という夢を胸に、勉学に励んでいます。中には成績優秀者として学校から表彰を受ける学生も出ています。また、昨年度は第1期生が1人、初めて看護学部を卒業して国家資格を取得。我々と共に活動に参加し始めました。



点から面への事業展開。チーム力で突破する。

Column 「地元にとよなく愛されるmade in Japanの病院を建てよう！」

カンボジア事業立ち上げから早7年。この間多くの人たちが活動や寄付で貢献してくれました。今後は特定病院への支援ではなく、医療行政区域のモデルケースを作り上げます！

つまり、現地人医療者育成を含め、点から面でカバーする事業にシフトするということ。

これによって、今まで手からこぼれおちていた治療の必要性が高い一人ひとりに確実に医療を届けていきます。

個人の力ではなくチーム力でしか突破できない壁がある。

同時に決して平坦ではないこの先に多くの喜びが眠っていることも感じます。

それをあなたと一緒に分かち合いたい。興味ある人、集合～!!!



プロジェクトディレクター
長谷川 彩未



さらに多くの人々に
医療を届けるために。

医療活動

経済発展をとげるミャンマーで、医療保険制度は整備されておらず、未だ貧しい人々は医療を受けられない状態が続いています。2014年度は、医療にアクセスしづらい人々へ医療を届けるため、地方の病院の協力を得て行う手術活動、田舎の村に医療チームを送り診療を行うモバイル診療に注力しました。

ミッチーナ総合病院(カチン州)とモンユワ(サガイン管区)で、小児患者を中心に計64名の診療、44件の手術を実施。また、メッティーラ(マンダレー管区)・ティーチャイ(サガイン管区)・ミッチーナ(カチン州)・ロイコー(カヤー州)の4か所で計1,594名のモバイル診療を行いました。次年度にはさらに活動地域を増やし、年間10回の診療を予定しています。

ミャンマーの活動拠点であるワッチェ慈善病院では、月2回の手術期間に加え、週3日の小手術、また専門医師を招いて整形外科、小児外科の手術をそれぞれ年2回実施し、計12,637名の診療、1,795件の手術を行いました。ワッチェでの子どもの治療はJ.S.Foundationの協力を得て実現しています。



ミャンマーでの医療活動を始めてから10年以上になりますが、私達のもとを訪ねる患者の数は年々増え続けています。活動に当たっての許可申請が思うように進まず苦勞することも多々ありますが、必要とされている限り医療を届け続けます。



養育施設Dream Train

今年も33名の子どもが入所しました。HIVで親を亡くした子ども、貧困のため食事や教育機会に恵まれない子ども計217名が暮らしています。建設から4年、湿度の高いミャンマーでは施設の老朽化が進み、屋根や床の修理を行うと共に、雨季の洗濯スペース確保のため屋根の増設もしました。

現在の一番の課題は「子どもたちの自立」です。洋裁・医療マッサージ・自動車修理、事務職などの職業訓練を実施しています。また、子どもたちの長期休暇を利用して、ワッチェ慈善病院でのボランティア体験を行い、責任を持って仕事を行うことの難しさや喜びを学びました。そして今年は初めて1名が全日制、2名が通信制の大学に進学しました。ミャンマーの未来を担う子どもたち。彼らが、経済的な自立だけでなく、自ら考え行動に移すことのできる精神的に自立した大人に成長していけるよう、今後も活動を継続していきます。



2015年3月20日、一人の医師が企画し、日本からの音楽ボランティアを募り、Dream Trainの子ども、チンミンダイン盲学校の生徒が参加する、音楽チャリティーイベントMusic Trainを行いました。

保健活動

ミャンマー国内には経済的な問題で公立の学校に通うことが出来ず、寺子屋で勉学に励む子ども達が多々います。今年もマンダレー市内にある寺子屋4校にて、子ども達に対する健康診断および保健教育を行ないました。子ども達が心身ともに健康で、より勉学に集中できる環境を提供できるようサポートを行っています。



視覚障がい者自立支援

2010年より5年間にわたって養成してきた視覚障がい者医療マッサージ教員は、44名にのぼりました。そして2014年度からは養成してきた教員が中心となり、視覚障がい者のための医療マッサージ職業訓練という形に移行しています。現在、ミャンマー国内の各地で視覚障がい者によるマッサージ店が次々とオープンし、国民にも広く知られるようになってきました。そしてマッサージが、視覚障がい者にとって最も人気のある職業の1つとなっています。

経済発展著しいミャンマーでは、今後は清眼者によるマッサージ店も増えてくることが予想されます。そのような状況の中でも生き残っていけるだけの技術や接客スキルも身に付けていくことが必要となってきています。

今後も視覚障がい者が経済的・社会的に自立できるよう、職業訓練のカリキュラムの充実にも努めていきます。



医療者育成

一般財団法人新倉会の支援を受け、5年に亘り医科大学、看護大学で医療者をを目指す学生たちに向け、奨学金サポートを行っており、2014年度には奨学生8名が無事卒業を迎えました。

医療の発展には、質の高い医療者の育成が鍵となります。現地人医師へ医療技術指導や看護師の育成にも注力しています。

サイクロン孤児

2008年にミャンマー南西部を襲ったサイクロン「ナルギス」の被災から、7年。災害で親を亡くした子どもたちに対し、生活と教育の支援を行っています。41名のサポートを続ける中で、子どもたちも成長し、今年は2名が就職しましたが、完全な自立を見届けるため、今後1年支援を継続します。これからも子どもたち全員の自立を目指し、サポートを続けていきます。



日本であれば助かるはずの命を救う、 はじめての一步。

医療活動

多くの支援が入っているにも関わらず、未だ貧しい人々に医療が届いていないラオスで「ジャパンハートだからできる支援」は、救えるはずの命を救う事です。2012年からラオスでの活動を開始、はじめての一步を踏み出した2013年、そして2014年は、本格的に定期的な医療活動に繋がっています。

初めての試みとしては、ラオス最北端、中国国境に面する標高1400mの高い山々に隔たれたポンサリー県ニョットウー郡でも診療を実施しました。この地にたどり着くには、首都ビエンチャンからセスナで約1時間半、さらに陸路を車で5時間ほど走らせます。有効な診療ができる医療者がいないため、

医療機関が有効に機能しておらず、17万人を超える住民は、この地域で適切な医療を受けられない状況にあります。お金のある人は自ら海外へ行き、治療を行います。2015年には現地で手術活動も行う予定です。

継続的な活動として、パークグム郡の郡病院およびヘルスセンターで計10回、計347名の患者の診療を行いました。また、同郡病院で計12回の手術活動を実施、計237件の手術と335名の診療を行いました。2015年はさらに活動地域を拡大し、一つでも多くの笑顔を作ることができるよう、活動を続けます。



人材育成

「ラオス人の手によって、ラオス人を救う」ため、私達が医療活動を行う際には、知識と技術の移転のため、常に、現地人医療者に対して指導を行っています。現地人医療者の育成は、ラオスの医療の向上には欠かせないポイントですが、もちろん一朝一夕にはいきません。手術前に学習会を実施すると共に、日本からの国際医療短期ボランティアの受け入れも開始し、活動に参加する日本人医師・看護師が、自らの知識と技術を現地の限られた環境の中でも活用できるように、患者の診療を行いながらも実践的な指導をしています。

診療に関しては、専用の問診用紙を活用し、特定の疾患を持つ患者に対して、現地人医療者が診療を実施できるようになりました。手術技術に関しても、指導の下、簡単な小さな表層腫瘍では執刀できるまでに成長しました。技術が定着するにはまだまだ時間を要しますが、長く、細く彼らとともに活動を続け、技術向上を目指します。今後も彼らが治療できる症例を拡げられるよう、指導を続けます。

◆BLS(一時救命処置)、ファーストエイドトレーニング

発展著しいラオスで、交通事故は年々増加しています。しかし、救急システムは整備されておらず、最大の国立病院でさえ、救命処置を学んでいるのは一部のスタッフのみです。2014年度は、ラオス最大のマホソット病院で全看護師337名、患者搬送に携わるドライバーを対象にBLS(Basic Life Support)トレーニングを実施しました。加えて、僻地ポンサリー県のニャットウー郡病院でも実施しました。

事故が起こるのは道路だけではありません。伐採現場、製材工場、ダム建設現場で事故が起きた場合、すぐに搬送できる環境であるとは限りません。僻地で活動している日本企業の

作業現場でも、作業に関わるスタッフ対象にファーストエイドトレーニングを実施しました。また、医療者以外の一般の人々にも対象を拡げ、ラオス国立大学教育学部の学生136名に計8回のトレーニングを行いました。

これらのトレーニングを経て実際に、現地スタッフが、自分の村で一人の少女の命を救いました。少女は水がめに転落し、溺れて心配停止状態でした。スタッフが、すかさず心配蘇生術を施行、少女は息を吹き返しました。

この活動が5年、あるいは10年後、「落とさずに済んだ命を減らす」大きな助けとなるため、拡大をしていきます。



VOICE 「感謝。とても嬉しい!!」



ヴァンディさん
甲状腺腫瘍患者

首に腫れものがあつたが治せずいた。何年も放っておいたら首をおおう程大きくなってしまった。手術してもらえてとても嬉しい。ラオスの他のどの病院でも手術はできないと言われた。日本人が救ってくれた。とても感謝している。



VOICE 「私も、人に伝えたい。」



リッティダさん
BLS受講者

BLSについて学ぶことができてとても嬉しい。これはとても重要だと思う。なぜなら、緊急の時に、命を救うことができる。ジャパンハートはとても良い団体だと思う。BLSを教えることができるし、ラオスの人々を手術して救うことができるから。私はもっと訓練して人に教えたいと思っている。





ASEANへ、日本へ。 被災地へいち早く支援を届けるために。

緊急救援、始動！

2008年ミャンマーサイクロン「ナルギス」、2011年東日本大震災、2013年フィリピン台風「ヨランダ」の災害対応経験を活かし、ASEAN圏内で起こる大規模災害に効果的な医療救援活動を行うための「国際緊急救援 International Emergency Relief」を立ち上げました。バンコクを拠点として医療チームを構成し、いち早く被災地へ向かいます。

世界で起こる災害による被害の90%がアジア圏内に集中しており、日本を含めたアジア地域での災害対策の重要性が注目されています。

初年度となる2014年は、災害頻度の高いインドネシアとの関係作りに注力し、インドネシア社会省とTechnical agreementを締結。社会省を母体とする市民ボランティア団体「TAGANA(インドネシア災害準備青年団)」に対する医療系知識・技術(ファーストエイド、トリアージ、搬送法など)の伝達協力を行うなど、活動を通して現地での足掛かりを構築しました。さらに、社会省と協働し、5ヶ国合同災害訓練を実施しました。

2014年10月 インドネシア「シナブン火山噴火」

インドネシア北スマトラ州のシナブン火山が大規模噴火起きました。火山噴火対応・避難勧告などが継続する中、評価隊として、インドネシア社会省と共に現地入りしました。

現地では、災害対策本部での情報収集、支援物資の管理を視察、避難所訪問による聞き取り調査などを行いました。実際の支援チーム派遣には至りませんでしたが、火山災害という事例を体験した貴重な評価活動だったと言えます。



2014年12月 フィリピン台風「ハグピット」

熱帯低気圧「ハグピット」は、2013年に大きな被害をもたらした「ヨランダ」を超える規模に成長し、同進路を辿る可能性が高いという情報を元に急ぎ現地入りしました。予想通り大型台風になりましたが、幸いにも被害が小規模であったため支援チームの派遣には至りませんでしたが、台風被害に対応するための貴重な経験を積むことができました。



目に見えないから 「心の復興」は、じっくりと。

心のケアと医師・看護婦派遣

気仙沼市立本吉病院に小児科医師を派遣し、子どもたちの急性疾患への対応、予防接種を実施しました。また病院職員のリラクゼーションを目的とした企画を行いました。

また毎月、小児科医師、看護師、臨床心理士(EMDR学会所属)による子どもたちの心のケアやリラクゼーションのための企画を、気仙沼市内の幼稚園、保育園、仮設住宅を訪問して行いました。

町の復興が進み、子どもたちの目に入る景色は日増しに改善する中、家庭環境の変化や父母の転職など、子どもや父母

にとってストレスとなる要因はまだまだ残されています。発達の気になる子どもに対して教諭へのアドバイスや母親面談を実施し、風通しのよい子育て支援ができるよう配慮しました。

仮設住宅では小児科医師による母子健康相談、アロマセラピストによるマッサージやアロマクラフトを実施し、母親がよりリラックスした気持ちで子育てができるような取り組みをしています。



VOICE 「震災から4年、心や健康面の不安も。」



石川 イネ子さん

支援先: 気仙沼 葦の芽星谷幼稚園 園長

ジャパンハートの仕事の重要性、大変さを知ったのは、震災に遭遇してからでした。自分たちが支援を受ける身になってそのありがたさを実感しました。

震災から4年以上経ち、物質的にはほとんど満たされてきていますが、時が経つほど心の部分や、健康面での不安が出始めているのも事実です。ジャパンハートの方々が現地のことをずっと気にかけて、見守り、親身になって話を聞いてくださることが、何より心の拠になっています。この出会いとつながっていることに心から感謝しています。



カンボジア

ミャンマー

ラオス

国際緊急救援

東日本復興支援

すまいるスマイル

僻地離島支援

医療ボランティア

国際長期看護研修

皆さまとの活動

広報活動会計

活動への支援



家族で過ごす思い出を、 子どもの生きる力に。

病気と闘う勇気を育む

医療者が付き添うことで、小児がんのお子さんと家族に安心して旅行・外出を楽しんでいただく「すまいるスマイルプロジェクト」。2014年は3組のご家族が医療者の付添のもと、旅行を実現されました。電話・メールで相談をいただく機会も増え、2015年7月現在で、すでに昨年度を上回る件数の旅行・外出が実現し、ゆっくりと患者さんに知られるようになってきました。

ご家族から多く聞かれる言葉は「自分達だけでは、万が一のことを思うと不安で、なかなか旅行に行けませんでした」「もし子ども具合が悪くなった時、一緒に考えてくれる、大丈夫だと言ってもらえる医療者の存在は大きい」などです。家からでも病院からの外出・外泊でも、臨機応変に対応し、ご

家族の想いを実現していきたいと考えます。

一期一会を大切に、お子さんやご家族と向き合い、素敵な旅行となるよう、引き続き2015年度も邁進します。



より多くの子ども達のために

より多くの子どもたちが楽しめるように、招待イベントを実施しています。2014年度は「キッズニア東京へご招待」、ジョンソン&ジョンソン株式会社のご協力のもとキッズセミナーとして「お医者さん体験のイベント」を実施しました。イベント当日の運営は、スタッフだけでなく医療者、一般のボランティアさんに協力いただいています。参加されたご家族、ボランティアスタッフも最初は少し緊張していますが、イベントの終わりには人と人との温かい繋がりが結ばれ、いつの間にか本当に皆さんが明るい笑顔になって帰られます。2015年度はさらに招待企画に力を入れ、より多くの皆様に参加いただけるよう、東京だけでなく関西へも活動を広げていきます。





医療の充実を目指して。

より多くの医療人財を僻地へ

東北・気仙沼、山梨、島根、長崎離島。

日本各地の僻地離島には、雄大な自然と共に生きる、暖かい人々の中で共存しながら地域に医療が溶け込んでいます。人手不足、震災復興の最中、土地を愛し、人を尊ぶ医療がそこにはあり、そこに住む人々と一緒に生きる医療が存在し続ています。

僻地離島への人財支援を通し、必要とされる場所に医療を届けるとともに、またそこで行われる患者の立場や人格を尊重した医療や高い看護実践能力、一時的治療場所という

よりは、人生を通して人を看て行くという、その土地ならではの医療の在り方の恩恵を受けながら、相互的に学び、深め合いながら、日本各地の医療の充実に努めています。



VOICE

「支援しているではなく、学ばせてもらっているんです。」



中平 啓倫さん
アドバンスドナース

「いつでも、誰でも、何でも、どこへでも」を合言葉に、医療、介護、仮設住宅や離島への訪問診療など幅広い医療の中で活動をしています。地域医療に関心の深い私自身は現在、週に一度、島の訪問診療に同行していますが、在宅でのターミナルケアを行いながら、人の「自宅で過ごす、自宅で人生を送る」という意味の深さを学ぶ事が出来ています。地域医療を幅広く、そして深く学んでいます。





医療者だからできる支援。

休暇を使って短期ボランティア

国際医療短期ボランティアは『数日間から参加可能』『語学力・キャリア不問』『通年開催』を特徴とし、年間500名近くの日本人医療者が海外の医療支援に参加しています。これまで医療者が海外で実際の医療支援を行う場合、活動期間は長期にわたり、仕事を休職・退職の必要がある、かつ参加時期も限られるなど、ハードルの高いものでした。

医療者が日本で仕事を続けながら、海外の医療現場でキャリアを積むことができるのは本ボランティアの最大の魅力であり、その参加者数は年々増加しています。

多くの医療者が活動に参加することにより、途上国で年間約17,000件の診察、約2,500件の手術が可能になりました。



ミャンマー・カンボジア・ラオス各国の手術活動のほか、地方での外来診療（巡回診療）等があり、医師は外科・内科のみならず、麻酔科・皮膚科・小児科・耳鼻科等など専門性を十分生かしていただきます。看護師は

病棟業務や手術介助など経験に応じて活躍されています。

参加者の年齢層は幅広く、経験の浅い方は国際領域での更なるキャリアアップのため、一方、経験豊富なベテランの方は国際貢献・現地医療者育成のためなど、参加動機も様々です。

長期医師ボランティアの活躍

海外の医療現場で更なるキャリアアップを目指す医師が毎年多く参加されています。研修医からベテランの外科医までキャリアも様々です。途上国では、設備・人材・情報などあらゆるものが制限された中、現地で出来る最大限の医療を行います。現地人と協働し、衣食住を共にしながら医療ニーズを見出します。現地に根差した医療に携われるのは長期滞在だからこそ醍醐味です。

医療を受けられることが当たり前でない環境下で、参加医師は学び続けながら貢献していきます。また医療保健活動だけに留まらず、養育施設の子どもたちに向けたチャリティイベントを企画・運営した方もいます。

本ボランティアであらゆる経験を積んだ医師たちは帰国後、専門分野のキャリアアップ、熱帯学への進学など次なるビジョンに向かいます。



求められる高い看護能力。 看護師として、人として、「何を成すのか」。

看護師たちの活躍

国際看護長期研修は、臨床看護実践能力と国際的なコミュニケーション能力、そしてその二つの土台を底上げする自己実現能力の向上を目指し、半年間の国内離島研修と半年間の海外研修をフィールドにより実践的に医療に取り組んでいきます。

限られた資源、物資、環境の中で、予測不可能で複雑なシチュエーションにも柔軟に対応が出来るよう、瞬間、瞬間のベストを尽くします。その過程で見えてくる自身の在り方を確認し、より質の高い医療者として選択を重ねることで、本来の

「リーダーシップ性」が育まれていきます。

看護師として、人として、自分の人生を人と生きていくために、「何者として、何を成すのか」というプロセスの中で、社会的役割に目覚め、その役割を遂行していく事は、自分自身を突き詰めていく事で国内、海外問わずより多くの場所で、必要とされる医療に対して、社会に対しての応答であると考えます。

そのようなリーダーを一人でも多く、社会に排出するために、充実した個性のあるプログラムを提供し続けます。

Column 「日本人医療者が海外へ出る理由・意義」

研修では年間約30名、これまで150名以上の看護師たちを輩出してきました。彼らが研修に臨むきっかけは様々ですが、多くは「看護師・人としての成長、自分への挑戦」です。

「ない」ことに不満をいうのではなく「ある」ことに感謝する。今ある環境の中でできるベストを尽くす。それが自分の限界を超える。そのきっかけをくれたのは、私自身もかつて参加したミャンマー、国内離島での研修でした。

ホスピタリティ精神が高い日本人の看護は素晴らしいと自負しています。日本の看護師の皆さんがこの研修を通して、自分の未知なる可能性を広げ、「わたしだからできること」を見つけて次へのさらなるステップアップへつなげてほしいと思っています。



グローバル人財育成担当
武内 三恵

カンボジア

ミャンマー

ラオス

国際緊急救援

東日本復興支援

すまいるスマイル

僻地離島支援

医療ボランティア

国際長期看護研修

皆さまとの活動

広報活動会計

活動への支援

私たちの活動に参加しませんか？

スタディツアー

年に数回、一般・看護師・学生を対象とした海外活動地へのスタディツアーを企画、実施しています。看護師限定ツアー、高校生スタディツアー、DreamTrain訪問ツアーなど、スタッフが添乗し、観光と合わせて現地を訪れるので、独りのご参加や海外渡航が不安な方にも大変おすすめです。



インターンシップ

インターンシップとは、半年から一年程度、各活動地の運営の一端を担い、無給で団体に従事しながらNPOの仕事学ぶ活動形態です。2014年度は社会人2名、学生4名が参加しました。この貴重な経験を糧として就職活動に活かす、国際協力の世界に入るなど、その後の進路は様々ですが、多くの実りと実績を残して、社会に旅立っています。



国内イベント・セミナー

様々なイベントを関東・関西で実施しています。活動の説明や活動報告を通じて、国際協力への理解を深め、同じ興味を持つ方々との交流の場としています。また、看護師向けの説明会や講演を行い、途上国医療の現状、現地の生活、実際に医療活動を行った看護師たちの話も聞くことができます。



東京事務局ボランティア・プロボノ

国内外で行う活動の基盤となる業務を行うのが東京事務局です。ここでは、多くの方がボランティア活動をされています。2〜3ヶ月に1回、週2回など、ライフスタイルに合わせたご参加が可能です。また翻訳、WEB広報、デザインなど、ご自身の持つ専門性の高いスキルや知識を活かして「プロボノ」として自宅で作業のお手伝いをいただく方もいます。



VOICE 「何にも代え難い財産です。」



那須田 玲菜さん
2014年度インターン

日本・ミャンマーでのインターン期間を経て、スタッフになりました。困難に遭遇した際に、現場を熟知したスタッフからの手厚いサポートを受けながら活動に専念することができます。世界には色々な価値基準がありますが、この期間を経て自分の人生のプライオリティーが明確になったことは、何にも代え難い財産です。ここに用意された”真っ直ぐな自分を貫ける環境”を活かして、今後も活動に尽力していきます。



VOICE 「キャリアに役立てたい。」



高田 奈緒さん
東京事務局ボランティア

海外での医療活動に関心があり、とにかく海外に行きたい!思っていたのですが、その前に支援にどう人が関わり、動いているかを学ぶ事も大切と考えボランティアに応募しました。今は支援者の方への資料発送や登録のお手伝いをしています。国際支援というと現地での活動に目が向きがちでしたが、本当に多くの方の支えあつての活動なのだと感じます。この経験を今後生かして、自分のキャリアにも役立てたいと考えています。



学生団体HEART's

HEART's(ハーツ)は、2013年にジャパンハートに関わる学生団体・個人を結集して設立されたジャパンハート直属の学生組織です。

吉岡秀人医師の「日本の未来を創る若者の育成」というビジョンのもと、ひとりでも多くの学生に「一歩を踏み出すキッカケ」を提供するため、国際医療研修をはじめ、毎年様々な活動を行っています。

Orchestra MOTIFとのコラボ企画 ミャンマーツアー

Dream Trainの子ども達に音楽を届けることをコンセプトとして2014年3月に引き続き、8月の第二弾では、実際に子ども達に楽器に触れ、演奏をしてもらいました!



チャリティー バブルサッカー大会

フィスコフットサルアリーナとしまえんにて、チャリティーバブルサッカー大会開催。当日は100人以上が参加。また、スペシャルゲストとして、ルー大柴さんをお迎えし、決勝戦では、審判をしていただきました! 収益はDreamTrainへの寄付、サッカーをするための環境整備等の資金としました。



世界にトビタツ! 学生限定フェリーツアー

例年、大好評の学生限定フェリーツアーを今年も開催。ジャパンハート代表・吉岡医師をはじめ、e-Education代表・三輪開人さん、トビタテ!留学JAPANの一期生をゲストに迎え、参加者同士でのディスカッションを通じて国際協力や自分の軸を再確認しながら、様々な角度から国際協力につながる視点を学びました。



理事紹介

これまで、理事長吉岡秀人の他、4人の理事がジャパンハートを支えておりましたが、2015年、新たにフリーキャスターの小宮悦子氏、経営戦略コンサルタントの植岡敬典氏を理事に迎えました。2014年度まで事務局長を務めた加藤宏一郎氏が常任理事に就任。基盤を築き上げてきた理事に加え、新たにその分野のプロフェッショナルである新理事を迎え、さらに多方面で活動を広げていきたいと考えています。



理事長
小児外科医
吉岡 秀人



副理事長
中小企業海外進出アドバイザー
小林 誠



理事
内科医
神白 麻衣子



理事
ジー・エム・エス・ジャパン株式会社代表取締役社長
高川 直樹



理事
ワイエムエス株式会社 取締役 [Lattice]編集人
七沢 英文



理事
フリーキャスター
小宮 悦子



理事
経営戦略コンサルタント
植岡 敬典



常任理事
前事務局長
加藤 宏一郎

毎年、多くの企業やメディアの注目を集めています。

ジャパンハートの活動は、支援者、ボランティアの方々はもちろん、多くの企業の協力や、メディアに取り上げられ、支えられています。

企業との主な取り組み

● 明美ちゃん基金

国内外の心臓病の子どもたちを救う「明美ちゃん基金」（産経新聞社提唱）、国立循環器病研究センター、東京女子医科大学と協力し、ミャンマーで先天性の心臓病の治療を発展させるための医療支援を実施していくことを決定。ジャパンハートは、プロジェクト実施に向けてのヤンキン子ども病院や現地医療者との各種調整を行っていきます。さらに、「日本のチカラで途上国の子どもを救う」活動でも心臓病のアウンくんの来日治療を協働で行いました。



写真提供:産経新聞社

● 株式会社浜田

未だ停電の多いミャンマーで、医療活動中にも電力供給が安定してできるよう、ワツチェ慈善病院に非常用電源を寄付いただきました。

● 株式会社ブライセン

養育施設Dream Trainの子どもたちの学業と職業訓練のため、パソコン10台の寄付とインターネット環境の整備をしてくださいました。

● 株式会社アクセス

雨の多いミャンマーで、養育施設DreamTrainの敷地内に大きな屋根を設置いただきました。雨の日に洗濯物を乾かし、遊び場としても活用しています。



● ハートメディカルグループ 株式会社タケダ

ミャンマー「視覚障がい者自立支援」によりマッサージ技術を習得した生徒たちの就業場所として、同社が経営するマッサージ店「和」での受け入れをいただいています。

● EMDR学会

東日本大震災復興支援事業の気仙沼における保育園・幼稚園の園児・家族・職員の心のケア活動に、臨床心理士として人材を派遣いただいています。

協働ファンドレイジング

● 基金ネットマイル

ネットマイルのサイトの利用者がポイントを寄付すると、ネットマイル社がそれを現金に交換しジャパンハートに届ける仕組み。100マイル=50円から募金できます。



● JAMMIN

京都発チャリティー専門ファッションブランドJAMMINとの協働企画として、すまいるスマイルプロジェクトのチャリティーTシャツとバッグを制作いただき、1週間限定で販売。



2014年度の主なメディア掲載

● テレビ

テレビ東京「未来世紀ジパング」
フジテレビ「スーパーニュース」
NHKワールド「Side by Side」
KSB瀬戸内海放送「スーパーJチャンネル」
西日本放送「ニュースエブリィ」
NHK岡山、OHK岡山放送、他

● 新聞

日本経済新聞、産経新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、東京新聞、沖縄タイムス、琉球新報、山陽新聞、西日本新聞、他

TOPICS

内閣府がテレビCMに
ジャパンハートを起用
(2014年11月)



10周年記念イベントとして立川談慶の落語と吉岡秀人、談慶師匠によるビッグ対談を実施
(2015年2月)

2014年度 活動計算書

2014年4月1日から2015年3月31日まで

(単位:円)

科目	決算額	前年度決算額
I 経常収益		
1 受取会費	15,786,000	10,976,000
2 受取寄附金	121,860,666	81,193,184
3 受取助成金等	10,667,078	19,915,145
4 事業収益	48,857,535	52,867,232
5 その他収益 *1	16,901,247	4,643,824
経常収益計	214,072,526	169,595,385
II 経常費用		
1 事業費		
(1)人件費	76,189,869	66,515,879
(2)その他経費	114,322,391	144,938,045
旅費交通費	24,685,625	28,832,455
医療支援・医薬品材料費	16,335,179	9,314,243
学業・子ども支援費	14,605,432	11,081,518
医療者育成費	7,648,452	1,620,181
地代・家賃	7,154,294	4,473,357
減価償却費	5,002,111	8,772,928
消耗品費	4,997,170	7,670,735
寄附金支出(現地へ建築物、血圧計等寄贈)	3,993,562	43,578,184
車両費	3,883,968	3,571,439
その他活動に係る経費	26,016,598	26,023,005
事業費計	190,512,260	211,453,924
2 管理費		
(1)人件費	13,103,620	18,534,502
(2)その他経費	8,660,012	9,854,893
管理費計	21,763,632	28,389,395
経常費用計	212,275,892	239,843,319
当期経常増減額	1,796,634	▲ 70,247,934
III 経常外収益		
固定資産売却益	1,061,723	0
経常外収益計	1,061,723	0
IV 経常外費用		
固定資産売却除却損 *2	21,023,932	
経常外費用計	21,023,932	7,662,912
税引前当期正味財産増減額	▲ 18,165,575	▲ 77,910,846
法人税、住民税及び事業税	71,068	139,198
当期正味財産増減額	▲ 18,236,643	▲ 78,050,044
前期繰越正味財産額	267,468,050	345,518,094
次期繰越正味財産額	249,231,407	267,468,050

2014年度 貸借対照表書

2015年3月31日現在

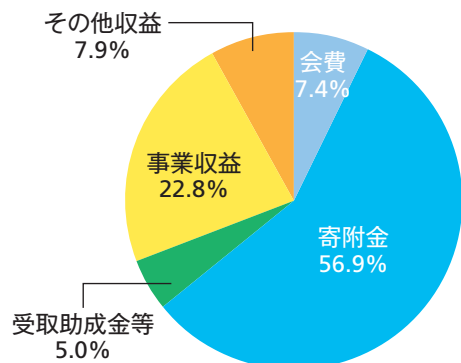
(単位:円)

科目	決算額
I 資産の部	
1 流動資産	
現金預金	124,988,276
棚卸資産	1,062,794
その他	10,341,848
流動資産合計	136,392,918
2 固定資産	
土地	77,595,012
建物	16,578,055
車両運搬具	2,174,500
工具器具備品	6,414,545
ミャンマー土地賃借権	20,683,101
ソフトウェア	371,000
敷金	795,680
長期前払費用	605,862
固定資産合計	125,217,755
資産合計	261,610,673
II 負債の部	
1 流動負債	
前受金	11,730,000
その他流動負債	649,266
流動負債合計	12,379,266
負債合計	12,379,266
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産	267,468,050
当期正味財産増減額	▲ 18,236,643
正味財産合計	249,231,407
負債及び正味財産合計	261,610,673

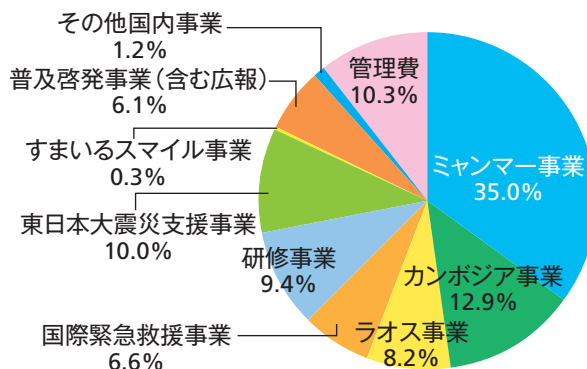
*1 その他収益には2014年10月に受賞した沖縄平和賞の賞金1,000万円が含まれる。

*2 固定資産売却除却損は全額石巻に建設したクリニックの解体などの費用である。

■収入内訳



■支出内訳(国別、事業別)



様々な形で支援いただけます。

ジャパンハートの活動は、皆様の支援で支えられています。

皆様からお預かりした寄付金・募金は活動地での薬品・医療器具等の購入及び活動費として大切に使用させていただいています。

会員になる

正会員・賛助会員（医療従事者・一般・学生・法人）として、ぜひ私たちの活動をサポートしてください。

会員の特典

- ① 活動地への短期ボランティア・研修への参加資格
- ② 年次報告書（年1回）、メールマガジン（月1回）等の購読
- ③ ジャパンハート主催会員限定イベントへのご招待
- ④ 総会での議決権（正会員のみのみ）

年会費

	正 会 員	賛助会員
医療従事者	20,000 円	18,000 円
一 般	10,000 円	10,000 円
学 生	10,000 円	6,000 円
法 人	100,000 円	60,000 円

◎ 法人会員の特典

- 当団体のWebサイト上の「支援団体・企業一覧」への掲載
- オリジナルのスタディツアーなど特別プログラムの企画・実施、社員様参加時の割引制度など

お申込み方法

電話：東京事務局へお問い合わせください。

インターネット：団体ホームページの「支援する」→「会員になる」よりお申込みください。

マンスリー寄付

1日約30円からできる、継続的な活動サポートです。毎月決まった金額を寄付することができます。

■ オンライン決済

団体ホームページ「支援する」ボタンより、「寄付する」ページへ。「毎月、継続的に寄付する」から決済をお願いします。

■ 口座からの自動引き落とし

電話、電子メール、団体ホームページ「お問い合わせフォーム」にて口座振替用紙をご請求ください。

1回の寄付・募金

■ オンライン決済

団体ホームページ「支援する」ボタンより、「寄付する」ページへ。「今回のみ寄付する」から決済をお願いします。

■ 下記口座への振込

お申込み方法

〈ゆうちょ銀行からお振込の場合〉

銀 行 名 ゆうちょ銀行
 口 座 名 義 特定非営利活動法人 ジャパンハート
 口 座 番 号 00910-3-166806

〈他の金融機関よりお振込の場合〉

銀 行 名 ゆうちょ銀行
 口 座 名 義 トクヒ) ジャパンハート
 預 金 種 目 当座
 店 名 ○九九(ゼロキュウキュウ)
 店 番 099
 口 座 番 号 0166806

当団体は認定NPO法人に認定されているため、ご寄付をいただくと税制上の優遇が受けられます。

《控除の対象とならない寄付》 ● 会費（正会員・賛助会員） ● 長期研修参加費 ● 短期ボランティア現地医療活動費
 ● イベント参加費 ● 募金箱への募金・匿名寄付

詳しくは最寄りの税務署へお尋ね下さい。



特定の事業への寄付

● Dream Train (ドリームトレイン) サポーター (マンスリー寄付)

ミャンマーの養育施設「Dream Train」では子どもたちの食費や教育費を1対1の里親支援によりまかなってきましたが、近年ミャンマーの社会情勢が急激に変化し、人件費や物価は高騰し続けており、生活費や施設の修繕費等がかさんでいます。また子どもたちの将来を見据えた職業訓練費用も必要になってきています。子どもたちが安心して健康に暮らしていくために、毎月のご寄付をお願いします。サポーター特典として、年に2回、施設の子どもたちからメッセージと半年間の活動報告が届きます。

※ オンライン決済、口座振替が可能です。

● カンボジアの医療育成事業「夢の架け橋プロジェクト」支援 (1対1の支援もしくは1回寄付)

家庭が貧しく教育が受けられない医師・看護師志望の大学生を、奨学生として毎年数名受け入れており、1人(1団体)の支援者に対して1人の学生を紹介。学費・生活費を支援いただいています。年4回程度、学生のレポート(写真・手紙)が届きます。また支援学生に会いに現地へ行くことも可能です。まずは詳しい資料をご請求ください。また、カンボジアでも物価の高騰が続いており、資金が不足しています。奨学生が安心して勉学に励むことができる環境を維持するためのご寄付もお願いしています。

※ 1対1の支援をご希望の場合はオンライン決済、口座振替が可能です。

ボランティアとして

医療者のみならず、一般、学生の方でも参加できます(海外での活動参加には会員登録が必要)。詳しくは東京事務局までお問い合わせください。

短期で参加 4日間～

① ミャンマー

● ザガイン・ワツチェ慈善病院

手術や診察に来る多くの患者であふれる病院では、外来診察介助、病棟看護ケア介助、処置に使うガーゼや綿球の作成・滅菌、医療器具の洗浄の手伝い、患者との交流および現地人スタッフへの日本語教育など、様々な仕事を経験できます。

● 養育施設 Dream Train

施設での食事作り・掃除・洗濯をスタッフや子どもたちと一緒に手伝いください。一緒に遊んだり、勉強を教えたりと、言葉は通じずとも、無邪気な子どもたちとの交流が図れます。

② カンボジア

現地の病院における外科手術のほかに、医療機関へのアクセスが悪い村での巡回診療を行っています。短期ボランティア医師・看護師が主体となり診療を実施します。食事作りや、活動地の掃除も皆でします。巡回診療では、多くの人が集まり、診療を待ちますので、より多くの方がスムーズに診察を受けることができるよう、患者の案内や誘導の手伝い、必要に応じて交流を図ってください。

③ 短期ボランティア (ラオス) 医療者

現地の病院における外科手術のほかに、医療機関へのアクセスが悪い村での巡回診療を行っています。ラオスでは短期ボランティア医師・看護師、および現地人医療者が主体となり診療を実施します。また、現地人医師・看護師への指導も行います。

日本国内で参加

● 東京事務局での運営サポート

宛名書きやパソコン入力作業、資料の発送作業、各種イベントの手伝いなど。

● プロボノ支援

広報活動、WEBツールの運用、翻訳(英語、ミャンマー語、クメール語、ラオス語)、コンピュータシステム構築、印刷物の企画、デザイン、画像編集、レイアウト、イベント・キャンペーンの企画運営、写真や動画撮影、編集など。

● すまいるスマイルプロジェクトでの企画のサポート

企画から実行までの各種調整、付き添い、しおりやアルバム作成など。



特定非営利活動法人 **ジャパンハート**

問い合わせ・資料請求

特定非営利活動法人ジャパンハート 東京事務局
〒110-0016 東京都台東区台東1-33-6 セントオフィス秋葉原10階
TEL. 03-6240-1564 FAX. 03-5818-1610
E-mail : japanheart@e-mail.jp

URL : <http://www.japanheart.org/>